

p,  
p,

楽しいだろうに  
悲しいだろうに

うに  
のほうに気をとられ

うつぶせに組み敷かれ

どじょうのような目―しながら

砂利のここちを確かめる

右の頬―  
左の頬―  
右の頬―

せわしなく

たまに  
口に含んでみては

もぐもぐもぐ―  
ペー―  
と吐き出す

斃れたわたしの指先に

雀が首をかしげ

かしげが首を雀

刃物が首をかすめ 足繁く通う

場所 わかなくなつてきて

ますます 足繁く通う

もちろん 目抜き通りには

ギロチン 旋盤 振り子状の斧がゆれ

へつられた頭のひとや かしめられた親子 などで賑わうのだ

保守点検に来た業者も ちよーん と切れて

レンチを握る左手を　　左手で握りしめ

増し締めし続けることにすら　　職人魂を感じる

電源を切ればいいのに　　と思いながら

電ではない　　と思いながら

試供品を待つ人波の傍らに待機して

つばをのみこむ

一億二千万人の

ごくつ

という音で　　線路に躍り出たものの

ルーシーは月額550円から　　成仏してもらえるのだ

いくつかの通い路に

斜交いに立てかけた

フー・アー・ユー　　故にワンスモア

はなっから　　はぐれていたのなら

のんびり泣いていて　　よかったのかもしれない

教室のカーテンにくるまって

一端を握りしめ　　半回転しながらも

ずっと　　ずっと

泣いていればよかったのかもしれない

見上げたら　　どこまでも続くのだ

登下校や部活動　　みつけた昼間　　仰げばクウ

やけにいたかった　　やけに広い予感に

せめて一度きりつくらい　　おーいに泣いてみたかった